

川崎市麻生区黒川谷ツ公園の鳥類

Wild Birds of Kurokawa Yatsu Park, Asao Ward, Kawasaki City

佐野悦子・野鳥班

Etsuko Sano and Wild Bird Research Group

Abstract

We executed field survey of wild birds in Kurokawa Yatsu Park, Asao Ward, Kawasaki City from May 2007 to April 2007, and recognized 28 families, 40 species. We also recognized 8 families, 8 species in a survey in April 2010.

緒言

かわさき自然調査団は2006年度に川崎市北部公園事務所から生田緑地等、川崎市北部の公園緑地における特定外来生物の影響を調査する業務を委託された。その対象地の一つとして、管理方法について検討中であった黒川谷ツ公園もとりあげていた。黒川谷ツ公園は公団による住宅地開発によって設けられた近隣公園であったが、開発地から動植物を保護した場所でもあり、様々な野鳥の飛来情報があったことなどから閉鎖型の管理を行う公園として2006年度に開設された公園である。この外来生物調査に参加した時の記録を報告する。またその後、2007年4月、2010年4月の一般開放日にも鳥類調査を行ったので記録を報告するとともに、1999年5月から黒川全域（以下、黒川と標記する。）についての鳥類調査を継続しているので、両調査結果を比較して報告する。

調査方法

1. 調査地の概要

黒川谷ツ公園は川崎市麻生区はるひ野の一角に位置し、小田急多摩線と京王相模原線に挟まれ、黒川特定区画整理事業により創出された、雑木林、湧水の流れと湿地、水田跡地などの環境からなっている面積3.27haの公園である。総面積の1/2～1/3を雑木林が占め、園路が整備され、京王相模原線の線路の土手には草地在が広がる。水田跡地には湧水が湛えられ、ヨシが繁茂していた。



図1 黒川谷ツ公園の位置

2. 調査方法

黒川谷ツ公園内の園路を歩き、観察された野鳥の個体数を調べた。上空は無制限とし、同公園内の野鳥に限った。公園外で鳴いているヒバリ、セッカ、ガビチョウなどは個体数に加えなかった。調査は毎月1回、時間は概ね午前中に行った。調査時間は平均1時間30分、調査参加人数は平均3.3名である。調査には双眼鏡を用いた。

調査結果

2006年5月から2007年4月までに28科40種の野鳥が確認され、日本鳥類目録（日本鳥学会、2000）

に従い表1に示した。渡り区分は神奈川の鳥 2001-05—神奈川鳥類目録□—（日本野鳥の会神奈川支部、2007）に準じた。また月別観察個体数は表2に表した。

表1 川崎市麻生区はるひ野黒川谷ツ公園における野鳥リスト

	科名	種名	学名	渡り区分
1	カモ科	カルガモ	<i>Anas poecilorhyncha</i> Forster	R
2	タカ科	トビ	<i>Milvus migrans</i> (Boddaert)	R
3		ノスリ	<i>Buteo buteo</i> (Linnaeus)	W
4	キジ科	キジ	<i>Phasianus colchicus</i> Linnaeus	R
5	シギ科	タシギ	<i>Gallinago gallinago</i> (Linnaeus)	T
6	ハト科	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i> (Latham)	R
7	カッコウ科	ホトトギス	<i>Cuculus poliocephalus</i> Latham	S
8	キツツキ科	アオゲラ	<i>Picus awokera</i> Temminck	R
9		アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i> (Linnaeus)	W
10		コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i> (Temminck)	R
11	ヒバリ科	ヒバリ	<i>Alauda arvensis</i> Linnaeus	R
12	ツバメ科	ツバメ	<i>Hirundo rustica</i> Linnaeus	S
13		イワツバメ	<i>Delichon urbica</i> (Linnaeus)	S
14	セキレイ科	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i> Tunstall	R
15		ハクセキレイ	<i>Motacilla alba</i> Linnaeus	R
16	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i> (Temminck)	R
17	モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i> Temminck & Schlegel	R
18	ツグミ科	ジョウビタキ	<i>Phoenicurus aureus</i> (Pallas)	W
19		シロハラ	<i>Turdus pallidus</i> Gmelin	W
20		ツグミ	<i>Turdus naumanni</i> Temminck	W
21	ウグイス科	ウグイス	<i>Cettia diphone</i> (Kittlitz)	R
22		セッカ	<i>Cisticola juncidis</i> (Rafinesque)	R
23	エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i> (Linnaeus)	R
24	シジュウカラ科	ヤマガラ	<i>Parus varius</i> Temminck & Schlegel	R
25		シジュウカラ	<i>Parus major</i> Linnaeus	R
26	メジロ科	メジロ	<i>Zosterops japonicus</i> Temminck & Schlegel	R
27	ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i> Brandt	R
28		カシラダカ	<i>Emberiza rustica</i> Pallas	W
29		アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i> Pallas	W
30	アトリ科	カワラヒワ	<i>Emberiza spodocephala</i> Pallas	R
31		ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i> (Linnaeus)	W
32		シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i> (Linnaeus)	W
33	ハタオリドリ科	スズメ	<i>Passer montanus</i> (Linnaeus)	R
34	ムクドリ科	ムクドリ	<i>Sturnus cineraceus</i> Temminck	R
35	カラス科	カケス	<i>Garrulus glandarius</i> (Linnaeus)	W
36		オナガ	<i>Cyanopica cyana</i> (Pallas)	R
37		ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i> Linnaeus	R
38		ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i> Wagler	R

外来種

39	ハト科	カワラバト（ドバト）	<i>Columba livia</i> Gmelin	R
40	チメドリ科	ガビチョウ	<i>Garrulax canorus</i> (Linnaeus)	R

渡り区分

- ・ R：留鳥
- ・ S：夏鳥
- ・ W：冬鳥
- ・ T：通過鳥（若鳥が南方から分散してくる種も含む）

表2 黒川谷ツ公園 月別観察個体数 2006年5月～2007年4月, 2010年4月

年 月 日 調査時間	2006								2007				合計	出現 回数	渡り 区分	2010 4 14 55
	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4				
1 カルガモ											3		3	1	R	1
2 トビ				1				1					2	2	R	
3 ノスリ											1		1	1	W	
4 キジ	1		1								1		4	4	R	
5 タシギ					1	1							2	2	T	
6 キジバト	2	1		2	8			2	10	1	1	4	31	9	R	
7 ホトトギス			1										1	1	S	
8 アオゲラ	2				1		2		1				6	4	R	
9 アカゲラ										1			1	1	W	
10 コゲラ	1	3	2	1	4	4		1	2	2	3	4	27	11	R	1
11 ヒバリ			1										2	2	R	
12 ツバメ			7										8	2	S	
13 イワツバメ				2									2	1	S	
14 キセキレイ							2						2	1	R	
15 ハクセキレイ	2	1			2		2		1	1	1	1	11	8	R	3
16 ヒヨドリ	10	14	4	5	4	8	7	14	3	3	3	7	82	12	R	6
17 モズ						3	1	1					5	3	R	
18 ジョウビタキ							1				2		3	2	W	
19 シロハラ								1	1				2	2	W	
20 ツグミ									3	3	1	5	12	4	W	1
21 ウグイス				2		2	4	3		2	4	5	22	7	R	
22 セッカ	1												1	1	R	
23 エナガ								6		2	4	1	13	4	R	
24 ヤマガラ				3	7	12	9	7	6	2	10	3	59	9	R	
25 シジュウカラ	12	7	4	13	11	22	8	26	18	16	6	7	150	12	R	
26 メジロ		4	2	15	4	12	6	5	8	4	3	7	70	11	R	
27 ホオジロ	3	5	2	1	2		2	1	1		11	4	32	10	R	
28 カシラダカ											1		1	1	W	
29 アオジ							3	1		2	1	2	9	5	W	1
30 カワラヒワ	10	1					7	14	35		2	6	75	7	R	2
31 ウソ								1					1	1	W	
32 シメ							2	2	20	7	1		32	5	W	
33 スズメ	1	13		14	58	120	3	1	80		1	6	297	10	R	
34 ムクドリ		2							12				14	2	R	
35 カケス							1	2					3	2	W	
36 オナガ					2								2	1	R	
37 ハシボソガラス	1		1		1	2	1	1	4		2	2	15	9	R	
38 ハシブトガラス				3		2	3	2	1	27		3	41	7	R	1
39 ドバト						3							3	1	R	
40 ガビチョウ		3						1					4	2	R	
総個体数	46	63	18	60	105	193	64	91	206	78	57	70	1051			16
総種類数	12	14	8	11	13	13	19	19	17	17	18	19	40			8

留鳥は19科26種が確認された。以下に出現回数により分け、種名を記載する。

- ・出現回数 10～12回 (ほぼ1年を通じて出現した種)
コゲラ, ヒヨドリ, シジュウカラ, メジロ, ホオジロ, スズメ
- ・出現回数 7～9回
キジバト, ハクセキレイ, ウグイス, ヤマガラ, カワラヒワ, ハシボソガラス, ハシブトガラス
- ・出現回数 3～4回
キジ, アオゲラ, モズ, エナガ
- ・出現回数 1～2回
カルガモ, トビ, ヒバリ, キセキレイ, セッカ, ムクドリ, オナガ, ドバト, ガビチョウ

夏鳥は2科3種が確認された。

- ・出現回数 2回
ツバメ

- ・出現回数 1回
ホトトギス, イワツバメ

冬鳥は6科10種が確認された。

- ・出現回数 4～5回
ツグミ, アオジ, シメ
- ・出現回数 1～2回

ノスリ、アカゲラ、ジョウビタキ、シロハラ、カシラダカ、ウソ、カケス
通過鳥は1科1種が確認された。

- ・出現回数 2回
タシギ

考察

1. 2006年度の黒川地区全域の調査との比較

1) 個体数の多い上位10種の比較

2006年5月から2007年4月の1年間を調査した黒川谷ツ公園と、2006年4月から2007年3月の1年間を調査した黒川の個体数上位10種の比較を表3に表した。

表3 黒川谷ツ公園, 黒川, 個体数の多い上位10種の比較

黒川谷ツ公園		個体数の多い順位	黒川	
スズメ	297	1	スズメ	1451
シジュウカラ	150	2	ヒヨドリ	905
ヒヨドリ	82	3	ハシブトガラス	508
カワラヒワ	75	4	カワラヒワ	381
メジロ	70	5	ムクドリ	325
ヤマガラ	59	6	メジロ	321
ハシブトガラス	41	7	カシラダカ	248
ホオジロ	32	8	シジュウカラ	239
シメ	32	9	ホオジロ	234
キジバト	31	10	ツバメ	193

種の個体数の多い順に黒川谷ツ公園と黒川の比較をした。以下の記載方法は、「種名(黒川谷ツ公園の順位, 黒川の順位)」とした。順位が「-(マイナス)」とあるのは上位10種に入っていない種である。

- ・黒川谷ツ公園, 黒川とも数字にあまり変化の無かった種

スズメ(黒川谷ツ公園 1, 黒川 1(黒川谷ツ公園では葦原で採食していることが多かった)),
ヒヨドリ(3, 2), カワラヒワ(4, 4(黒川谷ツ公園では線路の土手で採食していた)), メジロ(5,
6), ホオジロ(8, 9)

- ・黒川谷ツ公園で多く観察された種

シジュウカラ(2, 8(黒川谷ツ公園では葦原などで採食していた)), ヤマガラ(6, -(黒川谷ツ公園では雑木林で採食, 群が見られた)), シメ(9, -(黒川谷ツ公園では線路の土手で採食していた)), キジバト(10, -)

- ・黒川で多く観察された種

ハシブトガラス(7, 3), ムクドリ(-, 5(黒川では畑, 草地などで採食)), カシラダカ(-, 7(黒川では草地, 休耕田などで採食)), ツバメ(-, 10(黒川では畑の上などを飛ぶ))

2) 特筆すべき鳥

- ・上空が開けているため, トビ, ノスリなどの猛禽類が観察された。
- ・キジが2006年5月7月, 2007年2月4月と4度確認されている。黒川では2006年度は確認されなかったが, 2007年4月に確認された。
- ・タシギが2006年9月10月と2度確認されている。黒川では1999年から2009年まで確認されていないが, 2010年2月に1度, よこみね緑地の湿地近くで確認された。
- ・ヤマガラ, シメの占める割合が高い。
- ・ウソが黒川谷ツ公園で11月に1羽確認されている。同じ11月に黒川でも2羽確認されている。

3) スズメ, シジュウカラ, ヒヨドリの個体数の比較

- ・次のスズメ, シジュウカラ, ヒヨドリのグラフの中の, 黒川4月の数値は, 黒川谷ツ公園を5月より調査したのにあわせ, 2007年4月の数値を採用した。

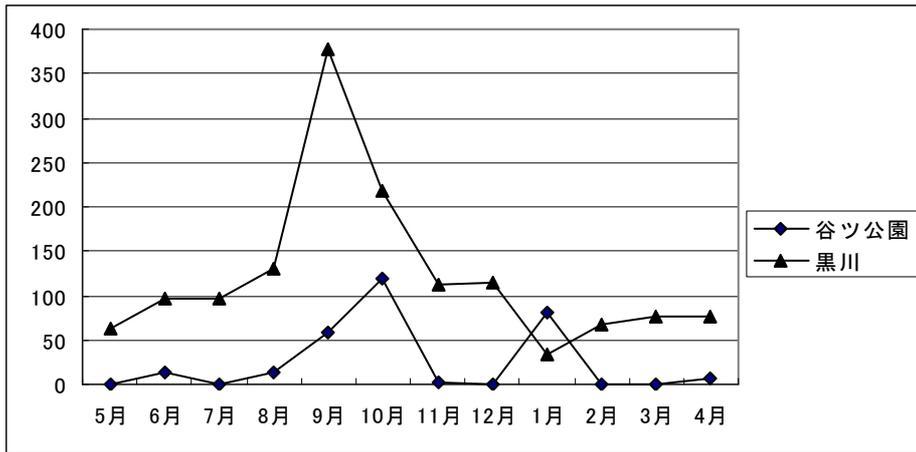


図2 スズメ

・スズメ（図2）は黒川谷ツ公園，黒川ともに一番個体数が多く概ね同じように変化している。

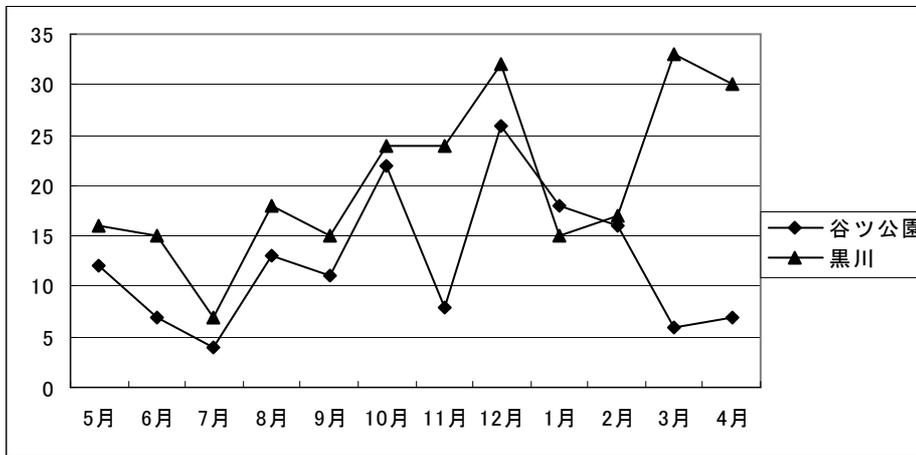


図3 シジュウカラ

・シジュウカラ（図3）は黒川谷ツ公園，黒川とも同じように変化している。個体数も黒川谷ツ公園は少し下回るが，同じような個体数である。ただし，黒川谷ツ公園（3月 6個体，4月 7個体）に対し，黒川は（3月 33個体，4月 30個体）と差があった。理由として，①混群が入ってこなかった，②黒川谷ツ公園の雑木林は小さいので，繁殖する個体だけが残った，などと思われる。

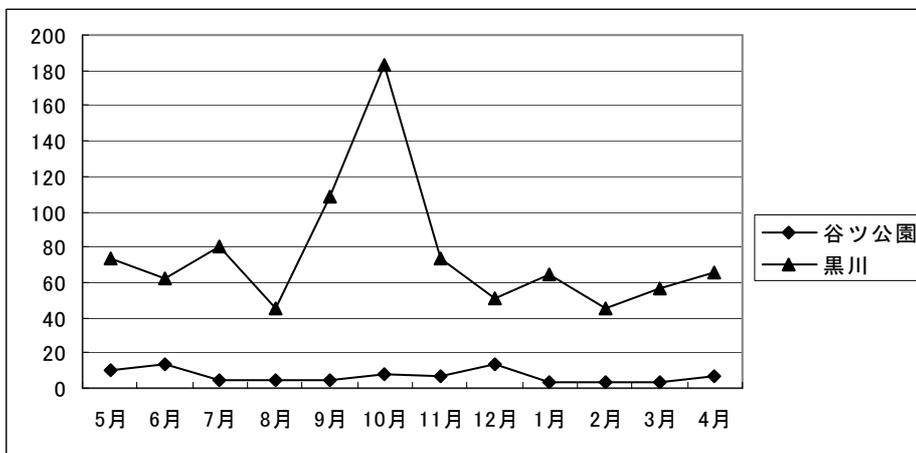


図4 ヒヨドリ

・ヒヨドリ（図4）は黒川谷ツ公園では6月と12月が多くなっているが，黒川と比べると，1年を通し

てあまり変化していない。

2. 2007年4月と2010年4月調査の比較

2007年4月11日（以下2007年と略す），一般公開された直後に調査に入った。また3年後の2010年4月14日（以下2010年と略す），一般公開日に調査に入った。2010年4月の観察結果は比較のため，表2の最後に入れた。



図5 小田急線・葦原を望む（撮影日2007年4月11日）



図6 同（撮影日2010年4月14日）



図7 奥の林（撮影日2007年4月11日）



図8 同（撮影日2010年4月14日）

1) 種類数と個体数の比較

2007年に観察された種類数は16科19種，総個体数70であった。2010年に観察された種類数は8科8種，総個体数16であった。2007年と2010年の個体数上位10種の比較をし，表4に表した。

表4 2007年，2010年，個体数の多い上位10種の比較

2007年		個体数の多い順位	2010年	
ヒヨドリ	7	1	ヒヨドリ	6
シジュウカラ	7	2	ハクセキレイ	3
メジロ	7	3	カワラヒワ	2
カワラヒワ	6	4	カルガモ	1
スズメ	6	5	コゲラ	1
ツグミ	5	6	ツグミ	1
ウグイス	5	7	アオジ	1
キジバト	4	8	ハシブトガラス	1
コゲラ	4	9		—
ホオジロ	4	10		—

以下の記載方法は，種名（2007年の個体数，2010年の個体数）とした。上位10種に入っていない場合は「-(マイナス)」とした。

- ・2007年，2010年，ともに上位10種に入った種

ヒヨドリ（2007年 7，2010年 6），コゲラ（4，1），ツグミ（5，1），カワラヒワ（6，2）

- ・2010年に出現しなかった種

キジバト（4，-），ウグイス（5，-），シジュウカラ（7，-），メジロ（7，-），ホオジロ（4，-），スズメ（6，-）

- ・2007年に出現しなかったが，2010年に出現した種

カルガモ（-，1）

- ・2007年，2010年に出現したが2007年は上位10種に入らなかった種

ハクセキレイ（1，3），アオジ（2，1），ハシブトガラス（3，1）

2) このような変化の原因を推測する

- ・2007年の観察時間は2時間であったが、2010年の観察時間は55分と少なかった。
- ・2007年は公開直後のためボランティア、来園者、調査者を合わせて5~6名であったが、2010年は一般公開も回を重ねているため、ボランティア、入園者、調査者合わせて約20名になり、2007年の3~4倍の入園者数であった。
- ・2007年は水田跡地に生えていた葦で採食していた種がいたが、2010年はアメリカザリガニ駆除のため葦が刈られ、浅い池になっていた。
- ・2010年は京王相模原線の土手向こうで整地作業をしていたため、土手に鳥が入らなかった。
- ・周辺の急速な市街化によるため。

結言

黒川谷ツ公園は黒川(279.4ha)の約1%の面積であるが、鳥との距離が近い、調査人数が少なかった、普段人の出入りが無いなどにより1年間で40種の野鳥が確認された。黒川は2006年度の確認種数は53種となっている。また簡単に比較することはできないが、2007年4月の種類数19と2010年4月の種類数8という結果は、環境の変化が鳥相の変化に端的に現れたと思われる。

参考文献

- 宇野美苗・金井キミ子・佐野悦子・宮永光子・増淵和夫, 1987. 川崎市多摩丘陵の野鳥とその季節的消長. 川崎市自然環境調査報告 : 105-114. 川崎市教育委員会.
- 野鳥班, 1991. 川崎市の野鳥目録. 川崎市環境調査報告 : 155-177. 川崎市教育委員会.
- 木下あけみ・野鳥班, 1994. 川崎市生田緑地の野鳥とその季節的消長. 川崎市自然環境調査報告 : 177-188. 川崎市教育委員会.
- 佐野悦子・野鳥班, 2003. 川崎市麻生区黒川地区の野鳥とその季節的消長. 川崎市自然環境調査報告 : 198-212. 川崎市教育委員会.
- 佐野悦子・野鳥班, 2007. 川崎市麻生区黒川の鳥類. 川崎市自然環境調査報告 : 148-158. 川崎市教育委員会・特定非営利活動法人かわさき自然調査団.
- 日本鳥学会, 2000. 日本鳥類目録改訂第6版 : 345. 日本鳥学会.
- 日本野鳥の会神奈川支部, 2002. 20世紀神奈川の鳥 一神奈川県鳥類目録 一. 340 pp. 日本野鳥の会神奈川支部.
- 日本野鳥の会神奈川支部, 2007. 神奈川の鳥 2001-05 一神奈川鳥類目録 一. 196 pp. 日本野鳥の会神奈川支部.
- 黒川谷ツ公園ホームページ <<http://kurokawayatsu.jp/>>, 2010/5/15

著者紹介

佐野悦子 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 野鳥班班長

野鳥班 特定非営利活動法人かわさき自然調査団 野鳥班

大森洋子, 佐々木和子, 佐野悦子, 瀧孔一郎, 武井キミ子, 中村亨, 福田公子, 水田茂子, 安井やす子